

経営比較分析表（令和3年度決算）

大阪府 高槻市

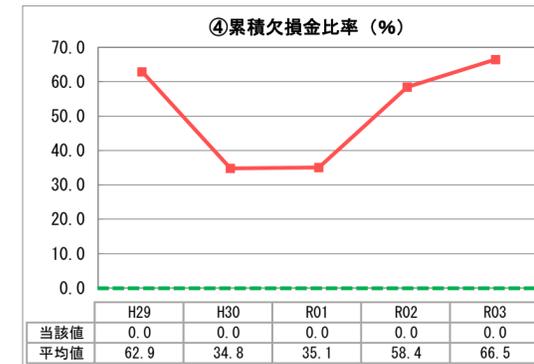
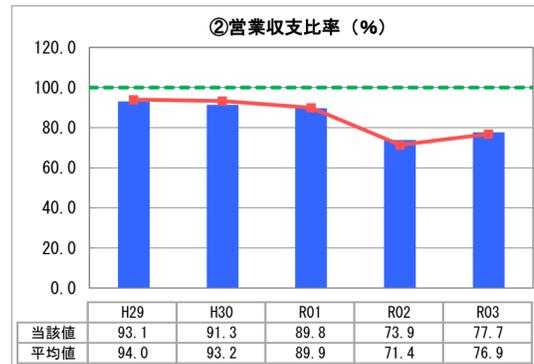
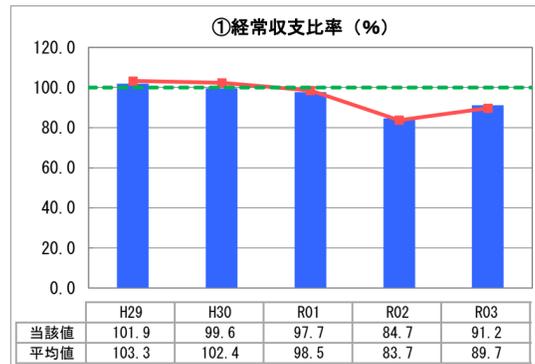
業務名	業種名	事業名	管理者の情報
法適用	交通事業	自動車運送事業	自治体職員
資金不足比率（％）	営業路線（km）	年間走行キロ（千km）	在籍車両数（両）
-	126.5	4,147	164
職員数（人）	管理の委託割合（％）	民間事業者の有無	地域公共交通計画策定の有無
303	-	有	無

※民間事業者の有無とは、行政区域内で民間バス事業者が運行しているかどうかを指す。

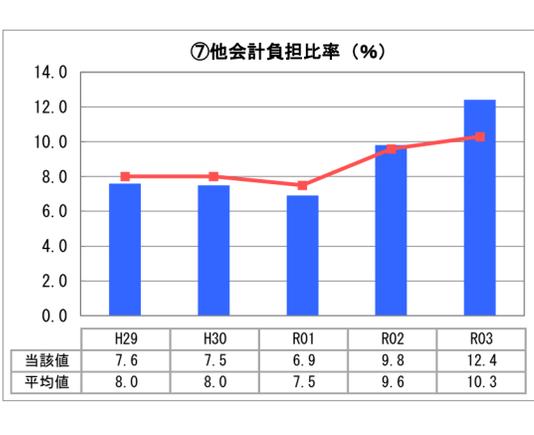
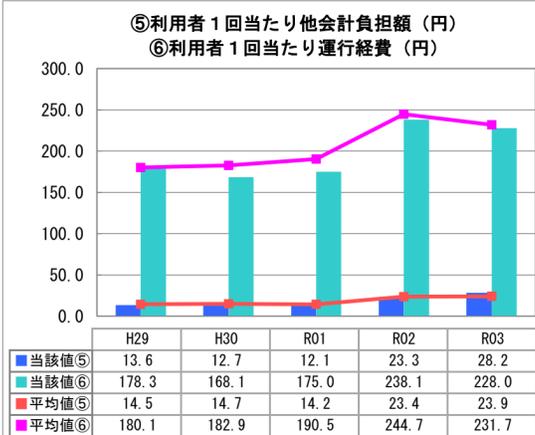
	H29	H30	R01	R02	R03
年間輸送人員（千人）	19,498	20,457	19,850	14,034	14,625
他会計負担額（千円）	264,633	258,883	241,177	327,160	412,879

1. 経営の健全性

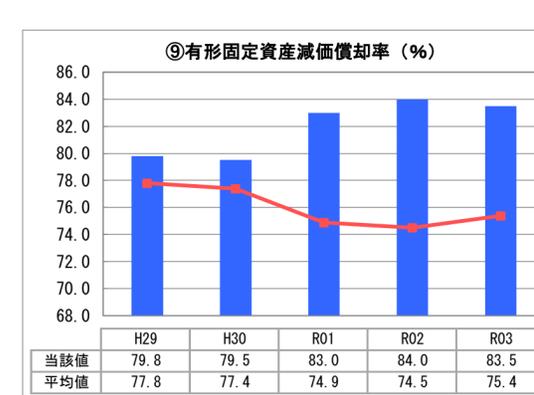
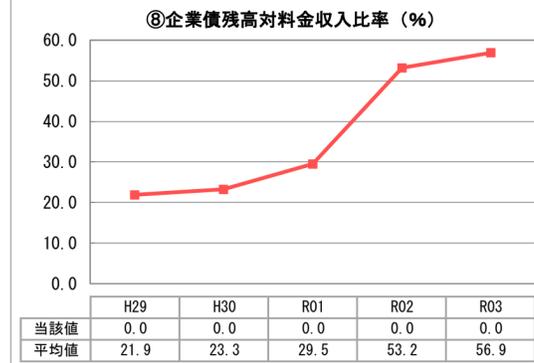
○事業の状況



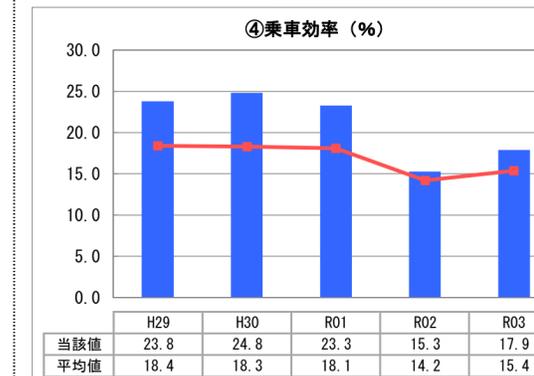
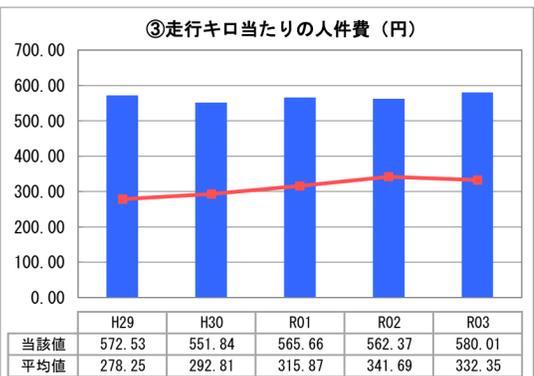
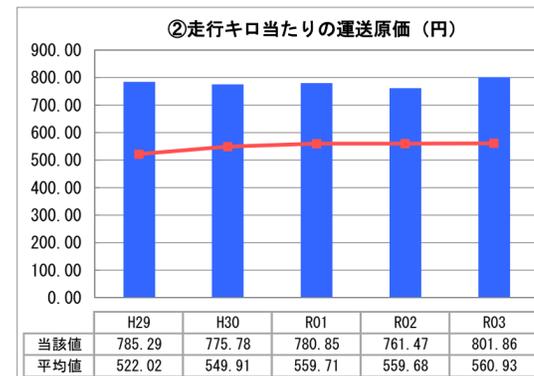
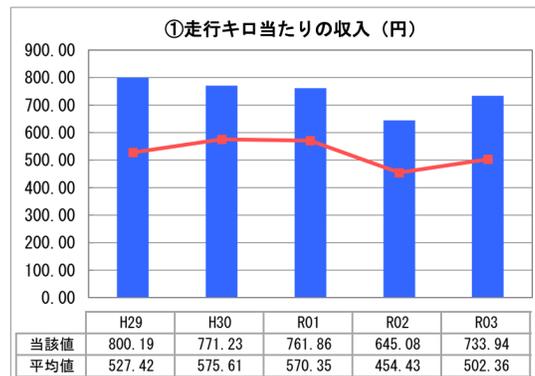
○独立採算の状況



○資産及び負債の状況



2. 経営の効率性



※民間事業者平均値は当該団体が所属する標準原価ブロックの民間平均値

分析欄

1. 経営の健全性について

指標の項目については、公営企業平均値と比較し概ね良好な数値となっている。特に流動比率では、100%以上であることが必要とされている中で本市は大きく上回っている。また累積欠損金や企業債も無く、経営状況は非常に健全である。

しかし、経常収支比率及び営業収支比率ともに100%未満である。その理由は、新型コロナウイルスの影響で減少した乗客の伸び悩みによる運送収益の落ち込みや、軽油価格の高騰や車両更新に伴う減価償却費などの費用の増加であり、経常収支比率及び営業収支比率ともに100%以上を計上出来ていない。

また他会計負担率については、地方公営企業への繰入金等で大きく増加した結果、公営企業平均値を上回ったものである。

2. 経営の効率性について

走行キロ当たりの運送原価及び人件費が民間事業者平均値に比べて本市は大きく上回っている。

運送原価が高い原因については、本市は通勤通学の時間帯に乗客数が集中し、住宅地と鉄道駅間の輸送が主なものになっていることから、輸送効率の観点から一方を回送しているためである。また人件費が高い原因についても、他事業者では、路線運行を外部委託しており「経費」として計上するが、本市は全て直営で「人件費」として計上しているためである。

これらの理由から、走行キロ当たりの運送原価及び人件費が平均値と比較し高くなっている。

全体総括

全体においては累積欠損金や企業債も無く、流動比率についても非常に良好な水準で経営状態は健全である。

しかし、今後も軽油価格の高騰をはじめ、電気やガス代の高騰や車両更新も続くことから、厳しい収支予測を立てており、各比率も悪化することが懸念されている。

今後はバス運行の効率化による人件費や経費の抑制を継続し、車両や各保有施設を利用した広告収入等の増収にも取り組み、収支改善を目指していくのである。